

教科書の作成



1冊の教科書が出来上がるのにかかる年月はおよそ4年！ 製作会社が本にまとめるまでに約3年、その後、文部科学省の検定審査に合格するまでに

約1年かかります。文部科学省は教科書製作会社の作った本が「学習指導要領(どんな内容をどの学年でどの位学習するか)の基準に合っているか？ 不正確なところや誤解を与えるような表現はないか」詳しくチェックをします。みなさんが使っている教科書は必ず「文部科学省検定済み」と表記されているはず。通常、教科書は、4年ごとに改訂の機会があり内容の更新が行われます。また、文部科学省の学習指導要領の見直しは10年ごとに行われています。

2020年(令和2年)度に小学校、2021年(令和3年)度に中学校が新学習指導要領スタート！

教科書選び

教科書はたくさんの会社から発行されています。その中からどの教科書を使うかは、公立の小中学校では各市町村の教育委員会で決められています。高校や国立、私立の小中学校は学校ごとに検討されて使用する教科書を決めています。



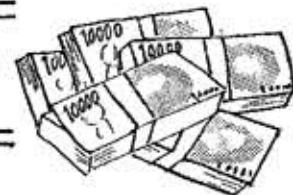
学年の途中で転校してしまったら...

転校後に使用する教科書が、これまで使っていたものと違ってしまった場合は再度無償で支給されます。転校前の学校で「転学児童(生徒)教科用図書給与証明書」を受けとり、転校後の学校へ提出すれば新しい教科書が給与されます。

学校の教科書



教科書に使われる税金



義務教育の小・中学校の子どもには、全教科の教科書が国の負担で無償で給与されています。これは、皆さんのお父さん、お母さんが支払っている税金でまかなわれているのです。令和元年度の予算額は、448億円でした。(約971万人の児童生徒に対して約1億冊の教科書が給与)

この義務教育の教科書無償給与制度は憲法第26条の義務教育無償の精神の実現により昭和38年から始まりました。

ちなみに令和元年度に使われている教科書の値段は平均すると一冊あたり小学校用は379円、中学校用は510円です。無償で給与されていても目に見えない所で代金は支払われているのです。教科書を大切に使いましょうね。



外国の教科書

教科書の制度は、国によてさまざまです。韓国やタイ、マレーシアなどでは国が全国共通の教科書(国定教科書)を作り使われています。フィンランドやフランス、イギリスなどは民間の会社で作成していますが日本のような検定制度はありません。自由に作られた教科書の中から学校で使いたいものを選んで使っています。また、教科書はアメリカ、フランス等多くの国では貸し出し制で使い終わったらまた次の子供たちが使う仕組みです。エゴですね。